

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記号)】			
事業所番号	4271401103		
法人名	医療法人 弘池会		
事業所名	グループホームかづさの杜		
所在地	長崎県南島原市加津佐町戊4427番地		
自己評価作成日	令和6年11月29日	評価結果市町村受理日	令和7年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和7年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは山間部にあり、周りが緑に囲まれた自然豊かな環境で、利用者様は静かでゆつくりとした生活を送られています。また医療法人で母体が病院である為、急な体調不良などがあっても24時間いつでも診察を受ける事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和6年4月より、2号館を1号館に統合し、2事業所から1事業所へ変更した。母体は医療法人であり、協力病院と連携し24時間診療可能な体制を構築しており、かかりつけ医による入居者の健康管理が家族の安心に繋がっている。他科受診には家族の同行を基本とし、必要に応じて職員が同行支援している。職員は入居者の表情や仕草を観察し、雑談を通して思いを汲み取り、入居者・家族の希望を尊重し、食後の嗜好品提供や、晩酌(医師の判断による)などの個別対応を実施している。職員間のチームワークも良く、個別ケアを充実させ、入居者のQOL向上を目指し、入居者が自分らしく健康で明るい生活を送れるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の1日の流れがあり、家庭的な環境とは言えない所もあるが、理念を共有し定期的に話し合いながら、家庭的な環境に近づけ安定した生活を送って頂いてる。	施設の1日の流れがあり、家庭的な環境とは言えない所もあるが、理念を共有し定期的に話し合いながら、家庭的な環境に近づけ安定した生活を送って頂いてる。	「家庭的な環境で自分らしい生活のリズムを保ち共同で暮らすことによって精神的に安定した健康で明るい生活を支援します」という理念を掲げ、各棟のステーションに掲示している。チームワークを大切にし、入居者一人ひとりの思いに寄り添い、その人らしい健康で明るい生活を送れるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会自体が小集落であり、施設も山間部にあり、環境としては静かであるが関わりは少ない。行事を通して近接の老健で保育園との交流を行っている。また、中学生の職場体験学習や高校生の福祉実習の受け入れをして交流を行っている。	自治会自体が小集落であり、施設も山間部にあり、環境としては静かであるが関わりは少ない。行事を通して近接の老健で保育園との交流を行っている。また、中学生の職場体験学習や高校生の福祉実習の受け入れをして交流を行っている。	ホームは山間部に位置し、静かな環境であるが、地域との交流が少ない点が課題となっている。ホームでは近隣の介護老人保健施設に訪れる保育園児の交流に参加したり、高校生の福祉体験の実習を受け入れるなど、地域社会との連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を配布しているが、活かしているとまではないと思う。運営推進会議出席者の地域住民代表や市町村職員へは会議を通して話をして理解してもらえるように努めている。	広報誌を配布しているが、活かしているとまではないと思う。運営推進会議出席者の地域住民代表や市町村職員へは会議を通して話をして理解してもらえるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、市町村職員、自治会長のご意見や疑問はその時、又は次回会議までに検討し、返答・情報交換している。利用者家族から市町村職員へ直接質問できる場にもなっており、それらも含めてサービス向上へ繋げている。	利用者家族、市町村職員、自治会長のご意見や疑問はその時、又は次回会議までに検討し、返答・情報交換している。利用者家族から市町村職員へ直接質問できる場にもなっており、それらも含めてサービス向上へ繋げている。	運営推進会議は、家族2名、地域包括支援センター職員、地域住民代表、理事長、1階・2階の管理者と介護主任で構成されている。令和6年6月までは書面会議であったが、8月からは対面会議で行っている。会議では、入居者の状況や料金変更などを報告し、意見や要望を聴取して運営に活かしている。会議の概要は玄関に掲示され、他の家族等も閲覧できるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当の方へ報告や不明なことの相談等を行っている。	介護保険課の担当の方へ報告や不明なことの相談等を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加があり、入居者の状況やホームでの取り組みを知らせ意見・情報を得ている。令和6年4月より、かつさの杜の2号館がなくなり、1号館と統合し2事業所から1事業所へ変更した。その折りも、地域包括支援センターや広域市町村圏組合の担当職員より必要な変更事項の情報を電話やメールで相談するなど、協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のため、個々にあわせた支援方法を考えて実施している。併設施設と身体拘束委員会・虐待防止委員会を設置し会議や、勉強会を定期的に行っている。	身体拘束廃止のため、個々にあわせた支援方法を考えて実施している。併設施設と身体拘束委員会・虐待防止委員会を設置し会議や、勉強会を定期的に行っている。	近隣の介護老人保健施設と連携し、身体拘束委員会と虐待防止委員会を定期的に合同開催している。会議内容は職員間で共有・閲覧し、認識を深めている。日中は玄関を施錠せず、常に見守り支援を行うことで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の勉強会に参加し、きちんと理解し、職員全員がお互いに注意して見過ごされる事がないよう防止に努めている。また、疑問に思うことは管理者へ相談してもらうようにしている。	併設施設と身体拘束委員会・虐待防止委員会を設置し、参加。指針を作成している。外部研修や法人内での勉強会へ参加することで理解と防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員ではないが権利擁護に対する通信学習や資料で学習してもらっている。	定期的な研修などに参加する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から訪問、来訪して頂き十分に説明し、理解頂けている。改定などあれば、毎月の面談時やその都度できちんと説明し、同意を頂いている。	入居前から訪問、来訪して頂き十分に説明し、理解頂けている。改定などあれば、毎月の面談時やその都度できちんと説明し、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の面談時やご面会時にご家族へ意見等がないかお聞きして、できる範囲で反映できるよう職員で話し合いながら取り組んでいる。	毎月家族面談(電話等にて)を行い、話しやすい関係を作っている。意見、要望はスタッフ間で共有し解決できるように努めている。	運営推進会議に1階棟と2階棟それぞれから1名ずつ家族が参加し、意見や要望を聴取している。また、毎月電話などで家族面談を実施し、面会時にも担当職員が意見や要望を丁寧にヒアリングしている。これらの内容は面談記録として残り、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場を設けることはできていないが、その都度意見が言える関係性を作り、職員から意見などを受け付けて対応している。	会議の場を設けることはできていないが、その都度意見が言える関係性を作り、職員から意見などを受け付けて対応している。	定期的な職員会議は行われていないが、意見や要望は申し送りや直接管理者へ伝えることで、運営に反映させている。勤務シフトは職員の家庭の事情等を考慮し、相談に応じるなど働きやすい職場環境整備に努めている。IT機器を導入し、入居者の安全確保と職員の負担軽減に努めている。ハラスメント対策は、法人としての方針を掲示済みで、今後、法人と協力して研修会を開催する意向である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境になるよう、時間調整や休みを取りやすくしている。またオンライン研修など勉強会に参加できるように調整を行い、各々のキャリアに合わせて手当を支給しモチベーションアップにつなげている。	働きやすい環境になるよう、時間調整や休みを取りやすくしている。またオンライン研修など勉強会に参加できるように調整を行い、各々のキャリアに合わせて手当を支給しモチベーションアップにつなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、外部研修・法人内研修・勉強会への参加促し、個々のスキルアップの向上に努めている。	随時、外部研修・法人内研修・勉強会への参加促し、個々のスキルアップの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の勉強会・研修に参加し、同業者との交流できる機会を作っている。しかし、R6年においては新型コロナウイルス感染予防等に伴い、交流できる機会はほとんど持ててない。	グループホーム連絡協議会等の勉強会・研修に参加し、同業者との交流できる機会を作っている。しかし、R6年においては新型コロナウイルス感染予防等に伴い、交流できる機会はほとんど持ててない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっての事前調査にて、本人及び家族からの聞き取り、また、利用されていたサービス提供者、系列の病院からも可能な限り情報を頂くことにより要望・希望等が把握でき自分のペースで生活して頂けるような関係作りに努めている。	入居にあたっての事前調査にて、本人及び家族からの聞き取り、また、利用されていたサービス提供者、系列の病院からも可能な限り情報を頂くことにより要望・希望等が把握でき自分のペースで生活して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたっての事前調査にて困られている事、心配されている事等伺う。 ご家族からも事前に話を伺いその中でその人らしい生活が送れるよう要望に耳を傾けている。	入居にあたっての事前調査にて困られている事、心配されている事等伺う。 ご家族からも事前に話を伺いその中でその人らしい生活が送れるよう要望に耳を傾けている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入・退院を繰り返されている方、状態の変化が激しい方や、常に観察が必要な方、また、通院の必要があるにもかかわらず通院が困難な方については医師と相談し、家族へ説明、同意を得て訪問診療を検討して頂いている。	入・退院を繰り返されている方、状態の変化が激しい方や、常に観察が必要な方、また、通院の必要があるにもかかわらず通院が困難な方については医師と相談し、家族へ説明、同意を得て訪問診療を検討して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に時間を過ごす事により些細な会話の中でも本人が思っている事、してみたい事、したくない事に耳を傾け日常生活の中で自分がしたい事、できる事を無理のないようにして頂きながら暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に時間を過ごす事により些細な会話の中でも本人が思っている事、してみたい事、したくない事に耳を傾け日常生活の中で自分がしたい事、できる事を無理のないようにして頂きながら暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめに連絡を行い本人の様子を伝えたり、本人から電話してもらったりしている。感染症対策の為、時間制限での直接面会だが以前より本人の状態を見てもらえ、職員との関係も築きやすくなっている。	こまめに連絡を行い本人の様子を伝えたり、本人から電話してもらったりしている。感染症対策の為、時間制限での直接面会だが以前より本人の状態を見てもらえ、職員との関係も築きやすくなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主介護者以外の面会も再開しており、近所から遠方の方などとも会えたり、電話なども定期的にあっている。人が多い場所への外出はまだ控えているが、ドライブや季節の花を観に行ったりして気分転換して頂き、馴染みの場所や景色、花を観てもらい懐かしんでもらっている。	主介護者以外の面会も再開しており、近所から遠方の方などとも会えたり、電話なども定期的にあっている。人が多い場所への外出はまだ控えているが、ドライブや季節の花を観に行ったりして気分転換して頂き、馴染みの場所や景色、花を観てもらい懐かしんでもらっている。	現在、感染対策を講じた上で、面会制限を撤廃し、家族・親戚・知人などの居室での時間制限付き面会を可能にしている。法事や米寿のお祝いなど、家族から入居者の参加を申し出られた際には、入居者の状態に合わせて食事用エプロンや介護用スプーンの貸し出し、オムツのパット交換などに対する助言等、入居者が馴染みの関係を継続できるよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な環境で生活して頂けるよう、その方に合ったペースで職員が間に入りひとり一人が孤立しないよう訪室する回数を増やし会話している。	日々の生活の中で各々出来る事を出来る範囲で手伝って頂きスタッフが間に入り良い関係が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後も家族、病院への聞き取りを行い退居された方へのその後の関係を大切に出来るよう経過のフォローを行っている。	入院後も家族、病院への聞き取りを行い退居された方へのその後の関係を大切に出来るよう経過のフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度の家族面談時や面会に来られた際に、ご家族へも希望、要望伺い申し送りや生活記録の活用をし、全職員が把握できるよう努めている。	月に一度の家族面談時や面会に来られた際に、ご家族へも希望、要望伺い申し送りや生活記録の活用をし、全職員が把握できるよう努めている。	入居者の思いや暮らし方の希望を、日常生活の中での観察や雑談を通して丁寧に汲み取るよう努めている。本人や家族の希望を尊重し、食後の嗜好品や、医師の判断に基づいた晩酌などの個別対応も行っている。入居者一人ひとりの生活リズムや個性を大切に、その人らしい暮らしをサポートできるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や入居された後でも日常生活の中での会話や行動等を見逃さないよう努めている。	事前調査や入居された後でも日常生活の中での会話や行動等を見逃さないよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中からひとり一人の行動パターンや状態の把握、健康状態等の観察を行い、その方に合った生活スタイルで楽しく過ごして頂けるよう努めている。	日常生活の中からひとり一人の行動パターンや状態の把握、健康状態等の観察を行い、その方に合った生活スタイルで楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の家族面談等で本人・家族から意見や要望を聞き、職員へも意見をもらいながら介護計画に反映させている。	毎月の家族面談等で本人・家族から意見や要望を聞き、職員へも意見をもらいながら介護計画に反映させている。	家族の意見や要望を大切に、毎月の面談時に家族から話を伺い、担当職員が面談記録や生活記録を作成している。これらの情報を基に、計画作成担当者が暫定の介護計画を立て、職員間で相談し、本人に合った介護計画を作成している。介護計画は3ヶ月ごとに見直すほか、状態変化があった場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録として全職員が気づいた事、どういった対応を行ったか、どういう風な対応をしたのかの情報を記入している。些細なことでも記入するようにしており、毎日の小さな変化にも気付くことが出来るよう職員間で情報共有している。	日々の生活記録を作成し記載している。毎日の申し送りや連絡ノートで情報の共有を図り支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や協力病院との連携を活かし歯医者や体調不良などでの医療面の協力が出来ている。さらに医師の協力のもと希望者には訪問診療を行ってもらい健康管理に努めている。	訪問看護や協力病院との連携を活かし歯医者や体調不良などでの医療面の協力が出来ている。さらに医師の協力のもと希望者には訪問診療を行ってもらい健康管理に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策を取りながら徐々に外部との交流が出来てきている。四季折々の花見見学に出かけたりして豊かな暮らしになるよう支援している。	感染症対策を取りながら徐々に外部との交流が出来てきている。四季折々の花見見学に出かけたりして豊かな暮らしになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や入居してから協力の主治医との連携を密にとり入居者の状況に応じた適切な医療を受けられている。	原則、協力病院がかかりつけ医となり急変時や定期的な受診ができるよう支援しているが、家族の状況に応じて可能な範囲で他病院への受診支援も行っている。	医療法人を母体とし、協力病院と連携して24時間診療可能な体制を整えている。入居者及び家族には、急変時も安心して対応できることを説明している。他科受診には家族の同行が基本であるが、難しい場合は職員が同行を支援している。通院が困難な方には、医師と相談し家族の同意を得た上で訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護に来てもらい必要に応じて相談行い、適切な処置、助言を受けている。又、健康管理記録として記入してもらい、全職員が把握できるようにしている。	週一回の訪問看護に来てもらい必要に応じて相談行い、適切な処置、助言を受けている。又、健康管理記録として記入してもらい、全職員が把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と連絡を密にとり今後の対応について相談行い、助言をもらいながら主治医をはじめ関係づくりが出来ている。	病院関係者と連絡を密にとり今後の対応について相談行い、助言をもらいながら主治医をはじめ関係づくりが出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、家族へ事業所で出来る事の説明行っている。 家族の要望では今までは病院への搬送が多かったが今後、家族、本人の要望があれば職員で支援していく。	入居時、家族へ事業所で出来る事の説明行っている。 家族の要望では今までは病院への搬送が多かったが今後、家族、本人の要望があれば職員で支援していく。	入居契約時に看取りの指針を説明し、ホームでできることを伝えている。重度化に伴い、本人・家族・医師・看護師・職員と方針を共有し、医師の判断で病院へ入院となる場合がある。本人・家族から看取り支援の要望があれば、その意向を尊重し、可能な限りのサポートを行っている。	看取りを行う場合、職員の精神的な負担や手順の確認が重要と言える、看取り支援の研修会の実施を通じて看取りに関する知識及び技術の向上や、職員の不安軽減に繋げると共に、看取り後の職員ケアにおいて、職員の精神的負担を把握する等、今後の体制整備に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員ではないが救命救急の研修には参加してもらい実践力を身につけるようにしている。	全職員ではないが救命救急の研修には参加してもらい実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回の消防訓練を昼、又は夜間想定で実施し、概ねの職員が出来ている。新人職員には直接指導し、周知を図っている。ろうけんや病院等の協力体制もできている。又、防火点検で毎日と月一回の定期点検を実施して、火災を未然に防ぐ等の対策をしている。災害訓練も実施している。訓練の内容も今後色々なシーンに合わせて実施していきたい。	年二回の消防訓練を昼、又は夜間想定で実施し、概ねの職員が出来ている。新人職員には直接指導し、周知を図っている。ろうけんや病院等の協力体制もできている。又、防火点検で毎日と月一回の定期点検を実施して、火災を未然に防ぐ等の対策をしている。災害訓練も実施している。訓練の内容も今後色々なシーンに合わせて実施していきたい。	年2回、昼夜を想定した火災避難訓練を1階・2階・3階のシルバーかつさと合同で実施している。近隣の介護老人保健施設の職員にも参加してもらい、連携を強化している。備蓄品として、食料品等を3日分以上各棟倉庫に準備し、賞味・消費期限を管理している。BCP(業務継続計画)は、感染症対策編と自然災害対策編を策定し、机上訓練を実施することで、緊急時における対応能力の向上を図っている。	避難訓練は、近隣の介護老人保健施設との連携により実施されている。しかし、ホーム周辺は住宅が疎らであり、有事の際の地域住民との協力体制構築が課題として挙げられる。今後の対策として、例えば運営推進会議の機会を活用し、避難訓練を委員に見学・参加してもらうなど、災害時に地域住民との連携体制の構築を図る取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	併設の施設と接遇委員会を設置しており、毎月の会議や定期的な勉強会に参加し、ひとり一人尊厳やプライバシーを傷つけないよう心掛けている。	併設の施設と接遇委員会を設置しており、毎月の会議や定期的な勉強会に参加し、ひとり一人尊厳やプライバシーを傷つけないよう心掛けている。	毎月、近隣の介護老人保健施設と合同で接遇委員会を開催し、接遇の向上に努めている。令和6年9月には「クレームの聞き方」研修会を開催し、全職員が研修内容を共有した。車椅子の方のトイレ介助時には、カーテンを閉めるなど、羞恥心に配慮した対応を徹底している。言葉遣いや対応においても、入居者様の尊厳とプライバシーを尊重し、丁寧なコミュニケーションを心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が尊重されるよう選択的な声掛けを行うようにしている。	本人の思いや希望が尊重されるよう選択的な声掛けを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の人数が少なく業務優先になることが多いが出来る限り希望に添えるよう過ごして頂いている。	大まかな一日の流れの中でも生活記録を生かしながら一人一人のペースに合わせた生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者それぞれに合う服装を選んで頂けるよう心掛けている。 10時の水分補給時には顔拭したり、食堂へ来られる際には整髪行い身だしなみに気を付け対応行っている。	入居者それぞれに合う服装を選んで頂けるよう心掛けている。 10時の水分補給時には顔拭したり、食堂へ来られる際には整髪行い身だしなみに気を付け対応行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほっとキッチンにて提供行い、入居者に合わせた刻み食や一口大サイズ、トロミにして食べやすいように提供行っている。また、かたづけや掃除等できる範囲の家事を行ってもらっている。また個別に食後や好きな時間に嗜好品(甘いものや酒類)も取り入れている。	ほっとキッチンにて提供行い、入居者に合わせた刻み食や一口大サイズ、トロミにして食べやすいように提供行っている。また、かたづけや掃除等できる範囲の家事を行ってもらっている。また個別に食後や好きな時間に嗜好品(甘いものや酒類)も取り入れている。	昼食・夕食は給食サービスを利用し、朝食・おやつは職員が手作りしている。入居者の嚥下状態に合わせて、刻み食やトロミ食を提供するなど、個別対応も行っている。誕生会ではケーキ作り、季節に応じて桜餅やおはぎを手作りするなど、食事を楽しめるよう工夫している。また、梅干し作りや、つわ・ふきの皮むきなど、入居者ができることを職員と一緒に手伝い、役割を持つことで生活意欲の維持に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、入居者様一人一人の摂取量を確認し、チェック表に記入を行っている。10時15時には、おやつ・水分補給をして頂き、水分量のチェックを行い記入を行っている。水分摂取が難しい方には好みの物を提供したり補水液ゼリー等を活用し水分摂取へつなげている。	毎食後、入居者様一人一人の摂取量を確認し、チェック表に記入を行っている。10時15時には、おやつ・水分補給をして頂き、水分量のチェックを行い記入を行っている。水分摂取が難しい方には好みの物を提供したり補水液ゼリー等を活用し水分摂取へつなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、忘れられる方には声かけや介助にて口腔ケアをしてもらっている。また定期的に義歯洗浄を行ったり、協力歯科医に助言をもらっている。	毎食後、忘れられる方には声かけや介助にて口腔ケアをもらっている。また定期的に義歯洗浄を行ったり、協力歯科医に助言をもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用して一人一人のパターンを把握し、声かけや本人の様子を見て誘導を行っている。	排泄チェックシートを活用して一人一人のパターンを把握し、声かけや本人の様子を見て誘導を行っている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で確認し、トイレに行けていない方には職員が声かけを行い、トイレでの排泄を促している。夜間は、リハビリパンツのパットのサイズ調整や、覚醒状況に応じたポータブルトイレへの誘導など、細やかな排泄支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂取量を把握し、少ない場合は嗜好品などで摂取量を確保しながら、併設施設の理学療法士と連携してリハビリプログラムを作成して運動をもらっている。慢性的な場合は訪問看護やかかりつけ医へ相談し薬の調整等の支援も行っている。	食事や水分の摂取量を把握し、少ない場合は嗜好品などで摂取量を確保しながら、併設施設の理学療法士と連携してリハビリプログラムを作成して運動をもらっている。慢性的な場合は訪問看護やかかりつけ医へ相談し薬の調整等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数面では希望に添えているとは言えないが、入浴時は湯温や湯船に入る時間等の希望に沿い、上がった時に良いお風呂だったと言ってもらえるような支援を努めている。	入浴回数面では希望に添えているとは言えないが、入浴時は湯温や湯船に入る時間等の希望に沿い、上がった時に良いお風呂だったと言ってもらえるような支援を努めている。	週2回、午前中の中の入浴を基本に、入居者の状態を把握し入浴支援を行っている。入居者の希望(シャワー浴、湯船での入浴など)を尊重し、介助方法も個別に対応している。入浴中は「熱くないですか」など声かけや世間話をしながら、入浴を楽しめるよう配慮している。入浴を拒否される方には無理強いせず、清拭を行い、翌日の入浴を促している。必要な方には毎朝陰部洗浄を実施し、入居者が清潔に過ごせるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活記録を生かし日々の生活習慣を職員で共有して個人のペースに合わせてながら居室や居間などでゆっくりできるように支援している。	生活記録を生かし日々の生活習慣を職員で共有して個人のペースに合わせてながら居室や居間などでゆっくりできるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示や薬剤情報から薬の目的を理解し、服薬ミスを減らすようダブルチェックや声出し、確認を行い誤薬のないよう努めている。変化があればすぐに医師や薬剤師へ報告相談している。	医師の指示や薬剤情報から薬の目的を理解し、服薬ミスを減らすようダブルチェックや声出し、確認を行い誤薬のないよう努めている。変化があればすぐに医師や薬剤師へ報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割を持ってもらいそれぞれの趣味をを提供し行事・散歩・日光浴などの支援を行っている。新型コロナウイルスも落ち着いてきた為、気分転換に近場へのドライブへ行き、喜ばれている。	その方に合った役割を持ってもらいそれぞれの趣味をを提供し行事・散歩・日光浴などの支援を行っている。新型コロナウイルスも落ち着いてきた為、気分転換に近場へのドライブへ行き、喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の協力をお願いしながらご家族と選挙の投票やお墓参り、米寿の祝いでの外出支援を行っている。	感染対策の協力をお願いしながらご家族と選挙の投票やお墓参り、米寿の祝いでの外出支援を行っている。	天候の良い日には駐車場付近の桜を見に行くなど、気分転換の機会を設けている。感染症対策をしながら、選挙や墓参りなど、家族との外出も支援している。月2回、近隣の介護老人保健施設に美容師が来所する際に合わせて、希望者に職員が付き添い、理美容サービスの提供を受けられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いとして預かり金庫にて管理している。その方の力量に応じて希望があれば少額を所持して頂いている。新型コロナウイルスの影響にて本人様がショッピングに行くことは出来なかったがその方の欲しいものを聞き、職員が代行で買い物へ行き、支援している。	ご家族様よりお小遣いとして預かり金庫にて管理している。その方の力量に応じて希望があれば少額を所持して頂いている。新型コロナウイルスの影響にて本人様がショッピングに行くことは出来なかったがその方の欲しいものを聞き、職員が代行で買い物へ行き、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があれば職員が対応している。携帯電話を持っておられる方もおられ自分の好きな時にかけて話されている。年賀状も届き、喜んでおられる。	依頼があれば職員が対応している。携帯電話を持っておられる方もおられ自分の好きな時にかけて話されている。年賀状も届き、喜んでおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るよう、花や季節の飾り等を飾ったり、空調・明りの調節をして心地よい空間づくりに努めている。	季節感が出るよう、花や季節の飾り等を飾ったり、空調・明りの調節をして心地よい空間づくりに努めている。	ホームは1階棟と2階棟に分かれ、玄関はそれぞれ独立して配置されている。介護職員の顔と名前が写真付きで掲示され、入居者や家族が識別しやすくなっている。フロアは、朝夕の換気や空気清浄機の使用により、空調管理を徹底している。季節の飾り付けが施され、明るく広々とした空間となっている。衛生面に配慮し、エアコンは季節の変わり目に清掃し、居心地の良い環境づくりに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 1 階)	実践状況(ユニット名: 2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思い に過ごせるような居場所の工夫をし ている	ひとり一人の生活スタイルを考えな がら居室や食堂共に思い思いの場 所で過ごして頂いている。	ひとり一人の生活スタイルを考えな がら居室や食堂共に思い思いの場 所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人 や家族と相談しながら、使い慣れた ものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫を している	居室には誕生日の色紙、写真等、家 族からのプレゼントを飾られ落ち着 ける場所になるよう努めている。	居室には誕生日の色紙、写真等、家 族からのプレゼントを飾られ落ち着 ける場所になるよう努めている。	居室には、テレビ、冷蔵庫、洋服掛け、 家族からのプレゼントなど、入居者の好 みに合わせた物品の持ち込みが可能で ある。ベッド、テレビ、洋服掛け、ポー タブルトイレ等の配置は、入居者の身体 状況や動線を考慮し、本人と相談しなが ら決定している。クローゼットも整備され ており、整理整頓と衛生維持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」「わかること」を活かして、安全か つできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	施設内はできる限り自分で出来るよ うに段差はほとんどなく手すり設置し てある。トイレの洗面台も車椅子の 高さに合わせている。	施設内はできる限り自分で出来るよ うに段差はほとんどなく手すり設置し てある。トイレの洗面台も車椅子の 高さに合わせている。		